



EBM に基づいた核医学検査技術

理 事 大 屋 信 義
九州大学

7月22日、23日の2日間に渡り、第26回日本核医学技術学会総会・学術大会を開催しました。本総会のメインテーマは、『EBNMTの夜明け』でした。過去第24回千葉総会、第25回仙台総会とEBNMTをシンポジウムのテーマとして取り上げ、司会としても関わり、今回をその集大成としました。第24回千葉総会では、EBMの概念と核医学およびそれ以外の領域でのEBMの例について取り上げ、第25回仙台総会では核医学検査のみに限定し、EBMのために何をなすべきかについて討論を行った。今までの学会なら、これで終わって会誌にまとめを書いて終わりとなったでしょうが、ここで終わらせるわけには行きませんでした。何としても、EBNMTの礎となるガイドラインを作成することを25回シンポジウム関係者の間では固く誓っていました。では、最初のガイドラインとして何を取り上げるか。脳、心臓、腫瘍、PETとある中で、前者3つは歴史も古くガイドラインとして完成までにはかなりの労力と各方面の理解が必要となると結論づけられました。そこで、まだ歴史も浅いPETならば短期間でのガイドライン作成も可能ではないかということになりました。もちろん、PET以外のガイドラインを作成しないということではありません。まずガイドラインを作ることが大切であり、国内の技術系学会でガイドラインを制定したことがなかったということがありました。学会が作るのが最も妥当であるとの判断もありました。

こうして25回総会以降、 ^{18}F -FDG 撮像ガイドライン作成委員会が発足し、1年間の活動を通して、今回のシンポジウムで会員の皆様に披露し、ご意見を伺うことになりました。今回のシンポジウム開催後は、委員会の中でさらに吟味を重ね、第1版なるものが学会誌やホームページを通して皆さんの目に留まることになります。ぜひ会員みなさんが、積極的に活用されることを期待しております。活用される中でのご意見は、学会宛に送付頂き、改訂の資料とさせて頂くことになると思います。ガイドラインの作成は始まったばかりです。これから多くの会員みなさんにガイドライン作成に関与して頂く必要があります。積極的な参加を是非お願いして、理事および大会長の職を解かせて頂きたいと思います。